

児童相談所と市町村の共通リスクアセスメントシート（例） 記載例①【市町村が受理した場合】

別添資料

【記載例の事例】

3/1午前にたんぼ保育園から5歳児クラスの男児の身体に傷・あざがあるとA市子ども家庭支援センターに通告あり。通告受理後、現況確認のためたんぼ保育園にセンターの保健師が訪問し、傷・あざを確認するが転倒による受傷の可能性も考えられ、保育園に経過を見るよう依頼。3/15朝、保育園から新たな身体にあざと「父に叩かれた」との子どもからの訴えがあると再通告あり。再度保育園を訪問し、状況を確認。受理会議にて児童相談所への送致事案と判断。送致協議後、昼過ぎに児童相談所が一時保護を実施。夕刻、児童相談所で両親と面談を実施した事例。

児童名	霞ヶ関 陽	性別	<input checked="" type="radio"/> 男 <input type="radio"/> 女	所属	保・幼・小・中・高（ ）年 (名称 たんぼ保育園)
生年月日	平成 23年 1月 3日	年齢	5歳1か月		
通告内容	保育園から園児（5歳1か月男児）に傷とあざがあるとの再通告があった。				

1 総合評価

(1) 虐待の緊急度と重症度		(2) 虐待の種類			
3/15一時保護が必要	(根拠とした理由) 3/1 顔面の傷、あざ	<input checked="" type="checkbox"/> 身体的虐待	<input type="checkbox"/> ネグレクト	<input type="checkbox"/> 性的虐待	<input checked="" type="checkbox"/> 心理的虐待
3/1中～軽度 →3/15重度	3/15 身体的な虐待があると判断。(特に、耳のあざを化粧で隠そうとした形跡がある)	3/15 耳のあざを隠そうとする形跡有り。			3/15 父がいつも怒っている、父から母への暴力を目撃したと本児から聴き取り。
(3) 子どもと家族が直面している課題と虐待の背景として考えられる要因		(4) 家族や子どもの意向・希望・意見等			
○父母の関係性の悪化（父からの暴力が母と子どもにある） ○経済的な不安（父による使途が分からない金銭の使用）		3/1時点では、聞き取りができていない。 3/15時点では、本人から「ノビバが怖い」との言葉が聞かれている。			
(5) 支援の目標（課題に対する対応及び支援内容等）		(6) 家族構成（ジェノグラム）、サポート体制等			
子ども	○安全な環境の確保（児童相談所の一時保護） ○安全な環境下での心身の状況確認				
家族・その他	○虐待への認識を確認（虐待であることを告知する必要有り）				
(7) 次回・見直し時期		(8) 特記事項			
3/1 保育園による要経過観察を継続。（1か月後、状況確認） 3/15 受理会議後、即、児相への送致。その後、児相が一時保護を実施。					
(9) 支援方針	3/15 一時保護が必要。児相への送致。	(10) 担当区分		児童相談所 市町村	
会議実施日	平成28年3月15日（水）	出席者	市子ども家庭課（担当係長・CW・保健師）、県児童相談所（担当児童福祉司・総括担当）		

2 アセスメント項目

(11) 項目		(12) 状況例 ※別紙2「児童相談所と市町村の共通リスクアセスメントシート (例)」の記載上の留意点「リスク因子の主な指標例」を参照のこと	(13) 把握した状況及び様子	①3/1			②3/15			①【実施日3/1】
				(14)リスク			(14)リスク			②【実施日3/15】
				あり	なし	不明	あり	なし	不明	(15)受理会議等での リスク
虐待状況の 確認	1 身体的な状況 (身体的虐待)	<ul style="list-style-type: none"> ○頭部、腹部、胸部の殴打・蹴る等で生命の危機に係る受傷 ○受傷状況不明の骨折 ○首しめ・布団蒸し・鼻と口を塞ぐなど窒息につながる行為 ○乳幼児揺さぶられ症候群等の虐待による乳幼児頭部外傷疑い ○熱中症、低体温症を招くような環境下での放置 ○新旧混在した傷がある ○熱中症、低体温症を招くような環境下（車中の放置等）での放置 ○玄関やベランダに締め出し、子どもが求めても中に入れない等 	<p>①保育所、訪問時のあざの状況 右頬→頬骨の下あたりに、擦り傷とうっ血した状態で2×2センチくらい。(受傷理由:登園時、母からは昨夜、自宅浴室での転倒によるあざと説明あり。) 登園時、顔のけがに気づき母に声かけをし、転倒によるけがと把握。本人からも「お風呂で転んじやった」と。顔以外には、けが・あざは見られず。母からの相談が気になり、念のために連絡したとのこと。</p> <p>② 右耳→耳殻に赤い、つなげた痕。親指と人差し指大の大きさ(受傷理由:不明)、あざを隠すためか、ファンデーションが塗られていた。 殿部→手の平で叩いた痕、指の痕様(受傷理由:不明) 3/1以降、着替えをした際に全身を観察をするようにした。昨日まで見られなかった耳と臀部のあざを発見。 本人は「昨日の夜、パパが耳をギュッと引っ張った。やめて！と言ったら、おしりも叩かれた。痛かったから泣いた。ママも叩かれて、泣いていたよ。パパのことは嫌い」と話す。また、「痛いのが無くなるお薬といってママが朝、耳に塗ってくれたよ」「この頃、パパはいつも怒っている。ママが泣いているから止めてという、僕まで叩いてくる。昨日は本当に痛かった」と。</p>	○			○			<p>①転倒によるものと思われるが、経過を追う必要がある家庭。保育所の経過観察を依頼する必要がある。</p> <p>②身体的虐待が繰り返されている。また、耳のあざを化粧で隠していることから、両親には虐待行為の認識があると判断。今回が2度目の通告であり、子どもの安全確保(一時保護)と抑止を行う必要がある。</p>
	2 ネグレクト	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な医療者のいない環境下での出産 ○乳幼児の遺棄・置き去り・放置 ○脱水症・栄養失調のため衰弱している ○慢性的な栄養不良や体重増加不良 ○必要な医療を受けさせない ○登校・登園させない ○慢性的に劣悪な住環境 ○予防接種を合理的な理由なく受けさせない 等 	<p>①</p> <p>②</p>				○			<p>①</p> <p>②</p>
	3 性的な被害の 状況 (性的虐待)	<ul style="list-style-type: none"> ○性交等、性的行為、性的接触 ○性器・口腔・肛門への侵入を伴う行為 ○性感症や性器・肛門の傷がある ○プライベートゾーンを触る、触らせる(着衣の場合を含む) ○児童ポルノの被写体にする ○強制的に性的描写や性交等を見せる ○子どもに対して卑猥な言葉を発する ○子どもに違和感があっても一緒に入浴することを強要する 等 	<p>①</p> <p>②</p>				○			<p>①</p> <p>②</p>
	4 心理的な状況 (心理的虐待)	<ul style="list-style-type: none"> ○心中や自殺を強要・教唆する ○子どもが感知できる環境下で次の行為が行われている ・ドメスティックバイオレンス ・自傷行為 ○刃物を使って威嚇をする ○子どもに対して言葉による強い威嚇・辱め・非難、無視や拒絶的態度がある ○子ども自身の存在に関わるきょうだいの極端な差別・きょうだいの差別がある ○「生まなければ良かった」「死んでしまえ」「出て行け」等の発言がある ○塾や家庭学習の極端な無理強い ○夫婦喧嘩に伴う通告、または口論や不和 等 	<p>①以下は、保育園の園長から聞き取り 1週間ほど前に母から相談あり。父の金遣いが荒さを母が父に注意したところ、本児の前で口論し、逆上した父が母に平手打ちをした。(初めて)この半年ほど、週末毎に父の金遣いのごとで夫婦間で口論になっているとのこと。父からの暴力行為に母はショックを受けたと話す。</p> <p>②本人からの聞き取りから、面前でDV行為が疑われる。 本人は「昨日の夜、パパが耳をギュッと引っ張った。やめて！と言ったら、おしりも叩かれた。痛かったから泣いた。ママも叩かれて、泣いていたよ。パパのことは嫌い」と話す。また、「痛いのが無くなるお薬といってママが朝、耳に塗ってくれたよ」「この頃、パパはいつも怒っている。ママが泣いているから止めてという、僕まで叩いてくる。昨日は本当に痛かった」と。</p>	○			○			<p>①女性相談の相談歴の有無を念のために確認すること。</p> <p>②DVの可能性が高い。女性相談の履歴は無かったが、念のため警察への通報など確認が必要。</p>

(11) 項目	(12) 状況例 ※別紙2「児童相談所と市町村の共通リスクアセスメントシート (例)」の記載上の留意点「リスク因子の主な指標例」を参照のこと	(13) 把握した状況及び様子	①3/1			②3/15			①【実施日3/1】
			(14)リスク			(14)リスク			②【実施日3/15】
			あり	なし	不明	あり	なし	不明	(15)受理会議等での リスク
子どもの 状況	5 分離の意思	○帰宅拒否 ○子どもが保護を希望 ○分離に対して同意 ○消極的帰宅選択 ○積極的帰宅選択 等	①						①
			②						②
	6 第三者による確認	○長期間生存が確認されていない ○正当な理由なく、保護者が子どもとの面会を繰り返し拒否 ○正当な理由なく、保護者が子どもとの面会を拒否 ○1週間子どもの安全が確認できない ○子どもが保育所等に来なくなった 等	①						①
			②						②
	7 養育者への思い	○怯える・いつも怖がって恐れている ○怖がる ○嫌がって遠ざけようとする ○保護者の前で萎縮 ○保護者の口止めに応じる 等	①以下は、保育所からの情報 母のお迎えの時と様子が異なり、父が保育所のお迎えの時には、とても静かに父を待つ姿が見られる。(萎縮している可能性あり) ②本人からの聞き取り 「昨日の夜、パパが耳をギュッと引っ張った。やめて！と言ったら、おしりも叩かれた。痛かったから泣いた。ママも叩かれて、泣いていたよ。パパのことは嫌い」と話す。「パパのことは嫌い」以外に「怖い」との発言あり。						①
		②						②	
8 精神状態	○生命に危険が及ぶ自傷他害がある ○極めて不安定 ○不安定な状態 ○リストカットなど自傷行為がある ○うつ的 等	①保育所からの聞き取りでは、気になることはない。 ②前回と変わらず、気になることはない。							①
		②							②
9 性格・行動面の 特徴	○多動、落ち着かない ○誰にでも親しく話す ○暴力的 ○万引き等の虞犯行為 ○年齢不相应な性的言動が見られる 等	①保育所からの聞き取りでは、気になることはない。 ②前回と変わらず、気になることはない。							①
		②							②
10 発達及び健康状態	○低身長・低体重（医師による診断のみならず、疑いも含む） ○心身の障害がある（手帳の有無に関わらず疑いも含む） ○乳幼児健診が未受診 ○関係機関から懸念がある ○予防接種未接種 等	①以下は、保育所からの情報 保育所での身体計測の結果は、良好。(2歳 身長 85cm、体重 12kg) 予防接種は滞りなく接種している。 ②							①
		②							②

(11) 項目	(12) 状況例 ※別紙2「児童相談所と市町村の共通リスクアセスメントシート(例)」の記載上の留意点「リスク因子の主な指標例」を参照のこと	(13) 把握した状況及び様子	① 3 / 1			② 3 / 15			①【実施日 3 / 1】
			(14) リスク			(14) リスク			②【実施日 3 / 15】
			あり	なし	不明	あり	なし	不明	(15) 受理事議等でのリスク
世帯の状況	11 居住環境	○放浪、車上生活 ○不適切な居住環境【健康被害が生じるほど著しく不衛生・著しく狭隘・不衛生】 ○サービス利用後も不衛生状態が継続 ○理由不明の頻繁な転居 ○サービス利用後に不衛生状態解消 等	①						①
	12 経済状態	○ライフラインが止まっている ○生活困窮（その日の生活に困る） ○収入不安定、多額の借金 ○世帯収入が生活保護基準を下回っている ○生活保護受給 等	①以下は、保育所からの情報 両親とも常勤ではあるが、父の金銭の使い方が夫婦間暴力の発端になっていることから、母から経済的な状況、不安などを確認する必要有り。 ②保育園からの聞き取り 送迎時に声かけするも「もう大丈夫」と母からはその後、相談はないとのこと。						① ②
	13 家族形態	○内縁の親子関係 ○若年保護者 ○ひとり親の夜間不在時に知人が子どもを監護 ○異性の友人が出入りするひとり親家庭 ○介護負担など、家族間に葛藤がある 等	①以下、保育所及び保健センター(乳幼児健診)での聞き取り内容 両親と本児の3人暮らし。市内に母方の両親が在住(車で15分)しており、子どもの病気時にもサポートがある。 ②						① ②
	14 父母の関係	○ドメスティックバイオレンスが生じている【保護命令対象・対象外】 ○意見の対立が表面化している ○夫婦間に強い不満 ○離婚調停・審判中 ○夫婦間の信頼関係の欠如 等	①以下は、保育所からの情報 2/21夜、本児の目の前で両親で口論し、父(夫)が母の頬を叩く。発端は、父の金遣いが荒さを母が父に注意したところ、逆上した父が母に平手打ちをした。(初めて)この半年ほど、週末毎に父の金遣いのことで夫婦間で口論になっているとのこと。父からの暴力行為に母はショックを受けたと話す。 ②保育園からの聞き取り 送迎時に声かけするも「もう大丈夫」と母からはその後、相談はないとのこと。						① ②
	15 親族との関係	○交流がまったくない ○極度の過干渉がある ○交流があるが、反発等の支障がある ○過去の問題が解決されておらず、交流により強い葛藤が生じる ○遠距離居住により交流が少ない 等	①以下は、保育所及び保健センター(乳幼児健診)での聞き取り内容 市内に母方の両親が在住(車で15分)しており、子どもの病気時にもサポートがある。 ②						① ②
	16 相談歴	○虐待による入院・入所歴がある ○虐待による一時保護歴がある ○他の虐待通告歴がある ○虐待以外での施設入所歴・一時保護歴がある ○虐待以外の相談歴がある 等	①保健センターの健診、相談履歴を確認。 1歳6か月健診のカルテを確認。健診時には、特に母から相談希望はなく、子どもの成長・発達も良好で、終了。市の子育て相談には、履歴なし。 ②						① ②
	17 きょうだいの相談歴	○虐待による入院・入所歴がある ○虐待による一時保護歴がある ○他の虐待通告歴がある ○虐待以外での施設入所歴・一時保護歴がある ○虐待以外の相談歴がある 等	①きょうだいはいない。 ②						① ②

(11) 項目	(12) 状況例 ※別紙2「児童相談所と市町村の共通リスクアセスメントシート (例)」の記載上の留意点「リスク因子の主な指標例」を参照のこと	(13) 把握した状況及び様子	①3/1			②3/15			①【実施日3/1】		
			(14)リスク			(14)リスク			②【実施日3/15】		
			あり	なし	不明	あり	なし	不明	(15)受理会議等での リスク		
保護者の状況	18 保護者との同居	○養育（虐待）者とのみ同居 ○虐待者以外の大人がいるが、虐待者に同調している ○虐待者以外の大人がいるが、虐待行為を黙認している ○虐待者は別居しているが、交流がある ○虐待者以外の大人が介入し、守ることもある 等	①						①		
		②						○	○	②	
	19 育児・養育能力	○生命維持に影響する飲食や生活習慣等への極端なこだわりや偏った知識がある・偏った知識 ○育児・養育能力【欠如・不十分・疑問】 ○育児・養育への【強い負担感がある、不安が強い、不安がある】 ○無関心 ○知識の不足 等	①							①	
		②							○	○	②
	20 育児・養育意欲	○育児・養育意欲【ない、不十分】 ○無関心 ○無力感 ○過干渉 ○子どもへの関心はあるが、関わりに一貫性がない 等	①							①	
	②							○	○	②	
21 精神状態	○入院加療が必要なほど不安定 ○医療機関受診を拒否するなど、衝動性が高く極めて不安定な状態 ○服薬の自己管理ができないなど、不安定な状態 ○過去に自殺企図歴がある ○関係機関の懸念がある 等	①								①保育所からの聞き取り、自立支援医療(精神通院医療)の申請の有無を確認すること。	
	②	② 自立支援医療の申請はなし。							○	○	②
22 依存の問題 (薬物、アルコール等)	○物質関連障害により生じる生活上の困難に子どもが日常的にさらされている ○薬物使用等による逮捕・勾留 ○依存があるが治療していない ○治療の有無に関わらず再発・憎悪を繰り返している ○複数の依存が合併している 等	①									①保育所からの聞き取り、自立支援医療(精神通院医療)の申請の有無を確認すること。
	②	② 自立支援医療の申請はなし。							○	○	②

(11) 項目	(12) 状況例 ※別紙2「児童相談所と市町村の共通リスクアセスメントシート (例)」の記載上の留意点「リスク因子の主な指標例」を参照のこと	(13) 把握した状況及び様子	① 3 / 1			② 3 / 15			①【実施日 3 / 1】							
			(14) リスク			(14) リスク			②【実施日 3 / 15】							
			あり	なし	不明	あり	なし	不明	(15) 受理会議等での リスク							
保護者の状況	23 虐待の認識 ○行為、事実とも完全否認 ○行為は認めるが虐待を正当化 ○一部を虐待と認める ○虐待認識がある 等	① ②本人からの聞き取り 右耳のあざに対し、「痛いのが無くなるお薬といってママが朝、耳に塗ってくれたよ」とのこと。						○	○	① ②耳のあざを化粧で隠していることから、両親には虐待行為の認識があると判断。父母、それぞれの認識を確認する必要あり。						
	24 援助への態度 ○保護者が子どもの保護を求めている ○援助を拒絶、暴力・強迫的反発 ○正当な理由なく来所要請や家庭訪問に応じない・応じないことを繰り返す ○拒否的、攻撃的、無視 ○時や場面により態度が変わる 等	① ②								○	○	① ②				
	25 困り感・改善意欲 ○改善意欲が全くない ○困り感を時折漏らすことがあるが、一貫しない ○困り感を表明できるが、解決方法が全く見いだせていない ○困り感があり、解決方法を求めている ○自身の問題の原因を子ども、他者、他機関に置く 等	① ②											○	○	① ②	
	26 サービス利用 ○提示されても拒否 ○必要性を否認 ○被害的に受け取る ○拒否や否定はしないが、利用には至らない ○関心を示さない 等	① ②													○	○
その他	27 懸念されること 気になること	① ②														① ②

児童相談所と市町村の共通リスクアセスメントシート（例） 記載例②【児童相談所が受理した場合】

【記載例の事例】

3/3朝、近隣住民から児童相談所が通告受理。緊急受理会議後、当日家庭訪問による安全確認を実施。母が小学2年の女兒を叱っていたことを認めるが、身体に傷アザ等はない。その後近隣通告もなく学校でも本児の安定している様子が確認されているが、父の帰宅が遅く相談相手のいない母が困っているほか、次子を妊娠していることも判明。地域でのサービス利用による支援等を検討する必要がある。

児童名	厚生 花子	性別	男 <input type="radio"/> 女 <input checked="" type="radio"/>	所属 保・幼・小・中・高（2）年 （名称 厚生小学校）
生年月日	平成20年5月5日	年齢	8歳8か月	
通告内容	3/3朝、近隣住民から「昨夜子どもの泣き声と女性の叱る声が聞こえた」と児童相談所共通ダイヤル189により児童相談所に通告があった。			

1 総合評価

<p>(1) 虐待の緊急度と重症度</p> <p>3/3一時保護不要 3/3軽度→17虐待おそれあり</p> <p>(根拠とした理由) 3/2 母が本児を怒鳴り、リモコンを投げつけ怖がらせる 3/14 虐待を繰り返しておらず、学校でも変わった様子はみられない</p>	<p>(2) 虐待の種類</p> <p><input type="checkbox"/> 身体的虐待 <input type="checkbox"/> ネグレクト <input type="checkbox"/> 性的虐待 <input checked="" type="checkbox"/> 心理的虐待</p> <p>3/3暴言や威嚇的な行動を母認める</p>			
<p>(3) 子どもと家族が直面している課題と虐待の背景として考えられる要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 母の精神的な余裕のなさ <input type="radio"/> 次子の予期せぬ妊娠（初期・妊娠届未提出） <input type="radio"/> 妊娠による就労見送り <input type="radio"/> 父の育児への協力が得られないこと <input type="radio"/> 興味関心により取組みが変わる本児の行動 	<p>(4) 家族や子どもの意向・希望・意見等</p> <p>3/14</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 母は今回の件を反省しているが、生活場面で本児を注意する際にどうすればよいか迷っており、何か使えるサービスがあれば紹介してほしいと述べている。 <input type="radio"/> 本児もテレビを見過ぎたり、時間を守れないことで困っている。 <input type="radio"/> 母によれば、父も本児のことは心配しているとのこと。 			
<p>(5) 支援の目標（課題に対する対応及び支援内容等）</p> <p>子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 学校に継続的な支援を依頼 (意識的な声かけ、できたことを認めて自信を持たせるなど) <p>家族・その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 次子の出産に向け安定した妊娠期が過ごせるよう支援 (妊娠届提出、保健師との面接設定) <input type="radio"/> 父への助言（子ども広場への本児との来所を働きかける） 	<p>(6) 家族構成（ジェノグラム）、サポート体制等</p>			
<p>(7) 次回・見直し時期</p> <p>3/3 1～2週間後に家庭訪問等により再度状況を確認 3/17 次回要対協の進行管理会議（29年6月）</p>	<p>(8) 特記事項</p>			
<p>(9) 支援方針</p> <p>3/17 在宅支援とし、市町村への送致を行う</p>	<p>(10) 担当区分</p> <p style="text-align: center;">児童相談所・<u>市町村</u></p>			
会議実施日	平成29年 3月 17日（金）	出席者	県児童相談所（担当児童福祉司、総括担当）、市子ども家庭課W、保健師	

2 アセスメント項目

(11) 項目	(12) 状況例 ※別紙2「児童相談所と市町村の共通リスクアセスメントシート (例)」の記載上の留意点「リスク因子の主な指標例」を参照のこと	(13) 把握した状況及び様子	① 3/3			② 3/17			①【実施日 3/3】
			リスク			リスク			②【実施日3/17】
			あり	なし	不明	あり	なし	不明	受理会議等での リスク
虐待 状況 の 確認	1 身体的な状況 (身体的虐待)	<ul style="list-style-type: none"> ○頭部、腹部、胸部の殴打・蹴る等で生命の危機に係る受傷 ○受傷状況不明の骨折 ○首しめ・布団蒸し・鼻と口を塞ぐなど窒息につながる行為 ○乳幼児揺さぶられ症候群等の虐待による乳幼児頭部外傷疑い ○熱中症、低体温症を招くような環境下での放置 ○新旧混在した傷がある ○熱中症、低体温症を招くような環境下(車中の放置等)での放置 ○玄関やベランダに締め出し、子どもが求めても中に入れない等 	① 通告受理日に学校に確認したところ、本児は変わりなく登校しており、見えるところに傷アザはなかった。 3/3家庭訪問による現認時にも、本児に「親から叩いたり、暴力を振るわれることはない」との話を聴取。						① 学校での継続支援を依頼。 1~2週間後に再度家庭訪問を行う。可能であれば、市にも同行を依頼。
	2 ネグレクト	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な医療者のいない環境下での出産 ○乳幼児の遺棄・置き去り・放置 ○脱水症・栄養失調のため衰弱している ○慢性的な栄養不良や体重増加不良 ○必要な医療を受けさせない ○登校・登園させない ○慢性的に劣悪な住環境 ○予防接種を合理的な理由なく受けさせない 等 	① ②						① ②
	3 性的な被害の 状況 (性的虐待)	<ul style="list-style-type: none"> ○性交等、性的行為、性的接触 ○性器・口腔・肛門への侵入を伴う行為 ○性感染症や性器・肛門の傷がある ○プライベートゾーンを触る、触らせる(着衣の場合を含む) ○児童ポルノの被写体にする ○強制的に性的描写や性交等を見せる ○子どもに対して卑猥な言葉を発する ○子どもに違和感があっても一緒に入浴することを強要する 等 	① ②						① ②
	4 心理的な状況 (心理的虐待)	<ul style="list-style-type: none"> ○心や自殺を強要・教唆する ○子どもが感知できる環境下で次の行為が行われている ・ドメスティックバイオレンス ・自傷行為 ○刃物を使って威嚇をする ○子どもに対して言葉による強い威嚇・辱め・非難、無視や拒絶的態度がある ○子ども自身の存在に関わるきょうだいとの極端な差別がある・きょうだいとの差別がある ○「生まなければ良かった」「死んでしまえ」「出て行け」等の発言がある ○塾や家庭学習の極端な無理強い ○夫婦喧嘩に伴う通告、または口論や不和 等 	① 現認時に母から離れ、別室で本児から聴取 ・22時を過ぎても本児がテレビを見るのを止めなかったため、母が「早く寝ろ」と怒鳴り、テレビのリモコンを本児の近くに投げた。本児は怖くて「やめて」と叫び、泣いてしまった。 ・朝母から「昨日はごめんね」と言われた。						① ②

(11) 項目	(12) 状況例 ※別紙2「児童相談所と市町村の共通リスクアセスメントシート (例)」の記載上の留意点「リスク因子の主な指標例」を参照のこと	(13) 把握した状況及び様子	① 3/3			② 3/17			①【実施日 3/3】
			リスク			リスク			②【実施日3/17】
			あり	なし	不明	あり	なし	不明	受理会議等での リスク
子どもの 状況	5 分離の意思	○帰宅拒否 ○子どもが保護を希望 ○分離に対して同意 ○消極的帰宅選択 ○積極的帰宅選択 等	①						①
			②						②
	6 第三者による確認	○長期間生存が確認されていない ○正当な理由なく、保護者が子どもとの面会を繰り返し拒否 ○正当な理由なく、保護者が子どもとの面会を拒否 ○1週間子どもの安全が確認できない ○子どもが保育所等に来なくなった 等	①						①
			②						②
	7 養育者への思い	○怯える・いつも怖がって恐れている ○怖がる ○嫌がって遠ざけようとする ○保護者の前で萎縮 ○保護者の口止めに応じる 等	①						①
			②						②
8 精神状態	○生命に危険が及ぶ自傷他害がある ○極めて不安定 ○不安定な状態 ○リストカットなど自傷行為がある ○うつ的 等	①						①	
		②						②	
9 性格・行動面の 特徴	○多動、落ち着かない ○誰にでも親しく話す ○暴力的 ○万引き等の虞犯行為 ○年齢不相応な性的言動が見られる 等	① ③/3学校から聴取 ・学校では穏やかで特に目立つところはない。発表の際緊張して泣いてしまうことがある。 ・絵を描くのが好きでひとつのことに集中するが、完成しないことが多い。							①
		② 3/14家庭訪問時に母から聴取 ・本児はテレビを見始めると固まってしまい、他のことができなくなる。 ・勉強をしてから遊ぶように話しているが、集中できず、だらだらとしてしまう。							②
10 発達及び健康状態	○低身長・低体重（医師による診断のみならず、疑いも含む） ○心身の障害がある（手帳の有無に関わらず疑いも含む） ○乳幼児健診が未受診 ○関係機関から懸念がある ○予防接種未接種 等	①							①
		②							②

(11) 項目	(12) 状況例 ※別紙2「児童相談所と市町村の共通リスクアセスメントシート(例)」の記載上の留意点「リスク因子の主な指標例」を参照のこと	(13) 把握した状況及び様子	① 3/3			②3/17			①【実施日 3/3】
			リスク			リスク			②【実施日3/17】
			あり	なし	不明	あり	なし	不明	受理会議等での リスク
世帯の状況	11 居住環境	○放浪、車上生活 ○不適切な居住環境【健康被害が生じるほど著しく不衛生・著しく狭隘・不衛生】 ○サービス利用後も不衛生状態が継続 ○理由不明の頻繁な転居 ○サービス利用後に不衛生状態解消 等	① 3/3現認時 2LDKの賃貸マンションで、居室内はきれいに整理されていた。						①
			②						②
	12 経済状態	○ライフラインが止まっている ○生活困窮（その日の生活に困る） ○収入不安定、多額の借金 ○世帯収入が生活保護基準を下回っている ○生活保護受給 等	①						①
			②						②
	13 家族形態	○内縁の親子関係 ○若年保護者 ○ひとり親の夜間不在時に知人が子どもを監護 ○異性の友人が出入りするひとり親家庭 ○介護負担など、家族間に葛藤がある 等	①						①
			② 3/14家庭訪問時に母から聴取 ・母は現在第2子を妊娠中。本児が小学校2年になり、時間に余裕が出てきたため、パート就労しようと思っていたが、妊娠がわかった。 ・妊娠届未提出。母子健康手帳の申請にはマイナンバーカードが必要と市役所のホームページに書いてあり、まだもらいに行っていない。						② 妊娠届の提出等の支援について市に依頼する
	14 父母の関係	○ドメスティックバイオレンスが生じている【保護命令対象・対象外】 ○意見の対立が表面化している ○夫婦間に強い不満 ○離婚調停・審判中 ○夫婦間の信頼関係の欠如 等	① 3/3家庭訪問時に母から聴取 ・飲食店を経営している父は仕込みで朝早く家を出て、夜も帰宅が遅い。 ・不定期の休日は寝ていることが多く、本児のことも相談できない。母はもう少し家事を手伝ってほしいと思っている。						①
		②						②	
15 親族との関係	○交流がまったくない ○極度の過干渉がある ○交流があるが、反発等の支障がある ○過去の問題が解決されておらず、交流により強い葛藤が生じる ○遠距離居住により交流が少ない 等	①						①	
		② 3/14家庭訪問時に母から聴取 ・父母とも実家は遠方。父方祖父母は共に亡くなり、母方は祖母が祖父の介護をしており、支援は頼めない状態。 ・車で1時間程度のD市に父方伯母家族が居住、時々母の相談を聞いてもらっている。						②	
16 相談歴	○虐待による入院・入所歴がある ○虐待による一時保護歴がある ○他の虐待通告歴がある ○虐待以外での施設入所歴・一時保護歴がある ○虐待以外の相談歴がある 等	① 3/3通告時に市に確認 市の相談歴なし。定期健康診査及び予防接種も実施され特段の記録なし。						①	
		②						②	
17 きょうだいの相談歴	○虐待による入院・入所歴がある ○虐待による一時保護歴がある ○他の虐待通告歴がある ○虐待以外での施設入所歴・一時保護歴がある ○虐待以外の相談歴がある 等	①						①	
		②						②	

(11) 項目	(12) 状況例 ※別紙2「児童相談所と市町村の共通リスクアセスメントシート (例)」の記載上の留意点「リスク因子の主な指標例」を参照のこと	(13) 把握した状況及び様子	① 3/3			② 3/17			①【実施日 3/3】
			リスク			リスク			②【実施日3/17】
			あり	なし	不明	あり	なし	不明	受理会議等での リスク
保護者の状況	18 保護者との同居	○養育（虐待）者とのみ同居 ○虐待者以外の大人がいるが、虐待者に同調している ○虐待者以外の大人がいるが、虐待行為を黙認している ○虐待者は別居しているが、交流がある ○虐待者以外の大人が介入し、守ることもある 等	①				○	○	①
			②						②
	19 育児・養育能力	○生命維持に影響する飲食や生活習慣等への極端なこだわりや偏った知識がある・偏った知識 ○育児・養育能力【欠如・不十分・疑問】 ○育児・養育への【強い負担感がある、不安が強い、不安がある】 ○無関心 ○知識の不足 等	①				○	○	①
			②						②
	20 育児・養育意欲	○育児・養育意欲【ない、不十分】 ○無関心 ○無力感 ○過干渉 ○子どもへの関心はあるが、関わりに一貫性がない 等	①				○	○	①
		②						②	
21 精神状態	○入院加療が必要なほど不安定 ○医療機関受診を拒否するなど、衝動性が高く極めて不安定な状態 ○服薬の自己管理ができないなど、不安定な状態 ○過去に自殺企図歴がある ○関係機関の懸念がある 等	①				○	○	①	
		②						②	
22 依存の問題 (薬物、アルコール等)	○物質関連障害により生じる生活上の困難に子どもが日常的にさらされている ○薬物使用等による逮捕・勾留 ○依存があるが治療していない ○治療の有無に関わらず再発・憎悪を繰り返している ○複数の依存が合併している 等	①				○	○	①	
		②						②	

(11) 項目	(12) 状況例 ※別紙2「児童相談所と市町村の共通リスクアセスメントシート (例)」の記載上の留意点「リスク因子の主な指標例」を参照のこと	(13) 把握した状況及び様子	① 3/3			② 3/17			①【実施日 3/3】	
			リスク			リスク			②【実施日3/17】	
			あり	なし	不明	あり	なし	不明	受理会議等での リスク	
保護者の状況	23 虐待の認識	○行為、事実とも完全否認 ○行為は認めるが虐待を正当化 ○一部を虐待と認める ○虐待認識がある 等	① 3/3現認時に母から聴取 ・「早く寝ろ」と怒鳴ってリモコンを投げたのは事実だが、ぶつけてはいけないと座布団の上に投げた。 ・泣いている本児を見て、怖い思いをさせたことをすぐに後悔した。怖い思いをさせてよくなかったと思う。							①
			②							②
	24 援助への態度	○保護者が子どもの保護を求めている ○援助を拒絶、暴力・強迫的反発 ○正当な理由なく来所要請や家庭訪問に応じない・応じないことを繰り返す ○拒否的、攻撃的、無視 ○時や場面により態度が変わる 等	①							①
			②							②
	25 困り感・改善意欲	○改善意欲が全くない ○困り感を時折漏らすことがあるが、一貫しない ○困り感を表明できるが、解決方法が全く見いだせていない ○困り感があり、解決方法を求めている ○自身の問題の原因を子ども、他者、他機関に置く 等	①							①
			② 3/14家庭訪問時に母から聴取 ・本児のことを何とかしたいとイライラしてしまうので、困ったときに相談ができる人がいてくれると助かる。							②
	26 サービス利用	○提示されても拒否 ○必要性を否認 ○被害的に受け取る ○拒否や否定はしないが、利用には至らない ○関心を示さない 等	①							①
			②							②
その他	27 懸念されること 気になること		①							①
			②							②

虐待相談・通告受付票

聴取者 ()

受理年月日		平成 年 月 日 () 午前・午後 時 分
子ども	ふりがな氏名	
	生年月日	平成 年 月 日生 () 歳 男・女
	住 所	
	就学状況	未就学 / 保・幼・小・中・高校 年 組 担任名 () 出席状況: 良好 欠席がち 不登校状態
保護者	ふりがな氏名	
	職 業	
	続柄年齢	続柄 () 年齢 (歳) 続柄 () 年齢 (歳)
	住 所	電話
虐待内容		<ul style="list-style-type: none"> ・誰から ・いつから ・頻度は ・どんなふうに
虐待の種類		(主◎ 従○:身体的/性的/ネグレクト/心理的)
子どもの状況		<ul style="list-style-type: none"> ・現在の居場所: ・保育所等通園の状況:
家庭の状況		<ul style="list-style-type: none"> ・家族内の協力者 () ・家族以外の協力者 () ・きょうだいの有無 有・無 ・同居家族 ・DV被害等
情報源と保護者の了解		<ul style="list-style-type: none"> ・通告者は 実際に目撃している・悲鳴や音等を聞いて推測した ・通告者は 関係者 () から聞いた ・保護者は この通告を (承知 ・ 拒否 ・ 知らせていない)
通告者	氏名	
	住 所	電話
	関 係	家族・近隣・学校・保育所・病院・保健所・児童委員・警察
	通告意図	子どもの保護 ・ 調査 ・ 相談
	調査協力	調査協力 (諾 ・ 否) 当所からの連絡 (諾 ・ 否)
通告者への対応		<ul style="list-style-type: none"> ・自機関で事態把握する ・その他 ()
決 済		年 月 日

表 一時保護決定に向けてのアセスメントシート

出典元: 子ども虐待対応の手引き(平成25年8月厚労省の改定通知)

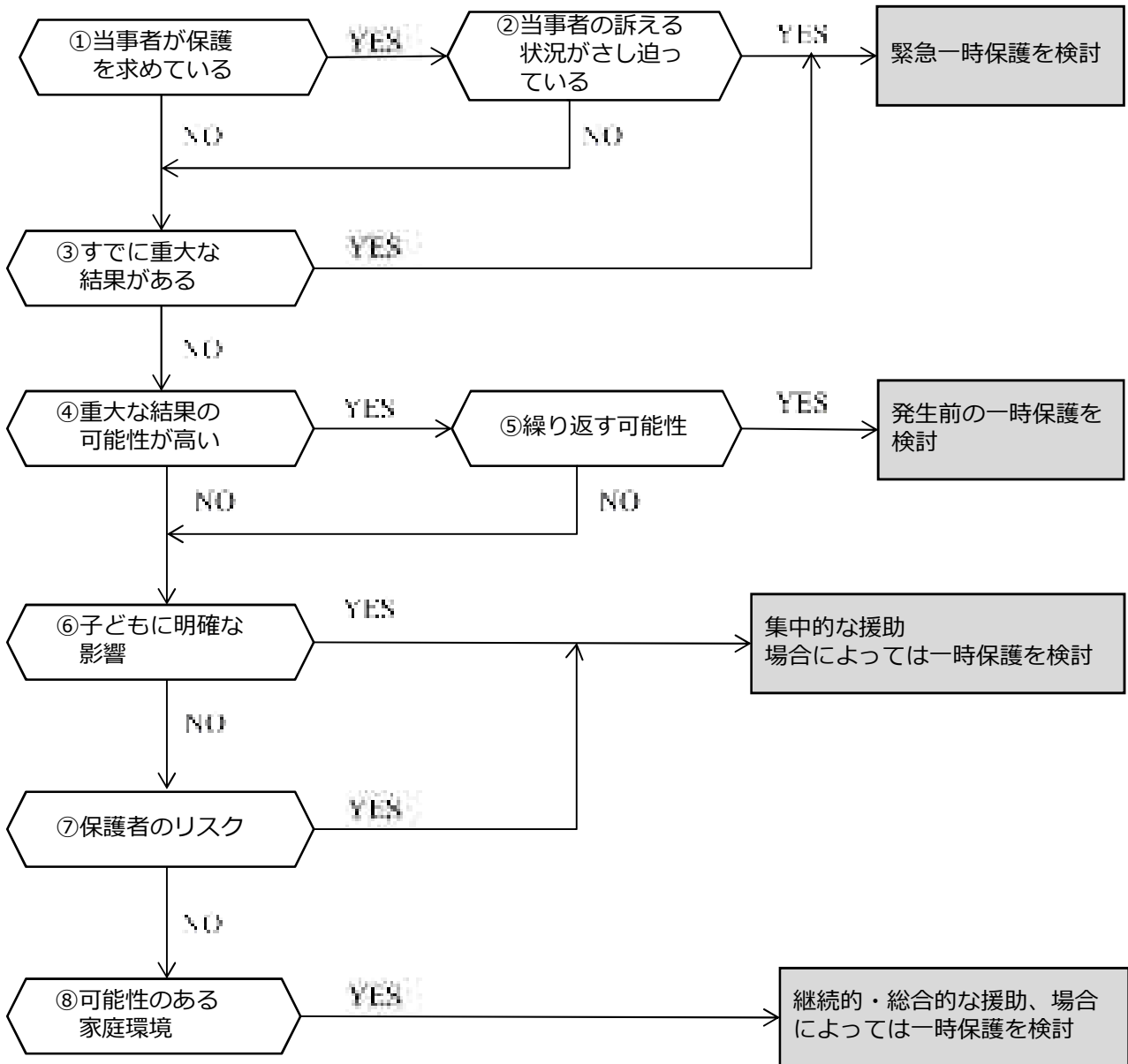
参考資料2-1

① 当事者が保護を求めている？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
<input type="checkbox"/> 子ども自身が保護・救済を求めている <input type="checkbox"/> 保護者が、子どもの保護を求めている	* 情報	
② 当事者の訴える状況が差し迫っている？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
<input type="checkbox"/> 確認にはいたらないものの性的虐待の疑いが濃厚であるなど <input type="checkbox"/> このままでは「何をすべきかわからない」「殺してしまいそう」などの訴えなど		
③ すでに虐待により重大な結果が生じている？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
<input type="checkbox"/> 性的虐待(性交、性的行為の強要、妊娠、性感染症罹患) <input type="checkbox"/> 外傷(外傷の種類と箇所: ネグレクト 例: 栄養失調、衰弱、脱水症状、医療放棄、治療拒否、()		
④ 次に何か起これば、重大な結果が生ずる可能性が高い？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
<input type="checkbox"/> 乳幼児 生命に危険な行為 例: 頭部打撃、顔面攻撃、首締め、シェーキング(揺さぶられ)、道具を 使った体罰、逆さ吊り、戸外放置、溺れさせる、() <input type="checkbox"/> 性的行為に至らない性的虐待、()		
⑤ 虐待が繰り返される可能性が高い？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
<input type="checkbox"/> 新旧混在した傷、入院歴、() <input type="checkbox"/> 過去の介入 例: 複数の通告、過去の相談歴、一時保護歴、施設入所歴、「きょうだい」の虐待歴() <input type="checkbox"/> 保護者に虐待の認識・自覚なし <input type="checkbox"/> 保護者の精神的不安定さ、判断力の衰弱		
⑥ 虐待の影響と思われる症状が子どもに表れている？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
<input type="checkbox"/> 保護者への拒否感、恐れ、おびえ、不安、() 面接場面での様子 例: 無表情、表情が暗い、鬱的体の緊張、過度のスキンシップを求める、() <input type="checkbox"/> 虐待に起因する身体的症状 例: 発育・発達の遅れ、腹痛、嘔吐、白髪化、脱毛、()		
⑦ 保護者に虐待につながるリスク要因がある？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
<input type="checkbox"/> 子どもへの拒否的感情・態度 例: 拒否、愛情欠如、差別など不当な扱い、予期しない妊娠出産、母子健康手帳未発行、乳幼児健診未受診、() <input type="checkbox"/> 精神状態の問題 例: 鬱的、精神的に不安定、妊娠・出産のストレス、育児ノイローゼ、() <input type="checkbox"/> 性格的問題 例: 衝動的、攻撃的、未熟性、() <input type="checkbox"/> アルコール・薬物等の問題 例: 現在常用している、過去に経験がある、() <input type="checkbox"/> 公的機関等からの援助に対し拒否的あるいは改善が見られない、改善するつもりがない <input type="checkbox"/> 家族・同居者間での暴力(DV等)、不和 <input type="checkbox"/> 日常的に子どもを守る人がいない		
⑧ 虐待の発生につながる可能性のある家庭環境等	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
<input type="checkbox"/> 虐待によるのではない子どもの生育上の問題等 例: 発達や発育の遅れ、未熟児、障害、慢性疾患、() <input type="checkbox"/> 子どもの問題行動 例: 攻撃的、盗み、家出、徘徊、虚言、性的逸脱、退行、自傷行為、盗み食い、異食、過食、() <input type="checkbox"/> 保護者の生育歴 例: 被虐待歴、愛されなかった思い、() <input type="checkbox"/> 養育態度・知識の問題 例: 意欲なし、知識不足、不適切、期待過剰、家事能力不足、() <input type="checkbox"/> 家族状況 例: 保護者等(祖父母、養父母等を含む)の死亡・失踪、離婚、妊娠・出産、ひとり親家庭等()		

図 一時保護に向けてのフローチャート

参考資料2-2

出典元：子ども虐待対応の手引き(平成25年8月厚労省の改定通知)



(解説)

- A ①②③のいずれかで「はい」がある時 → 緊急一時保護の必要性を検討
- B ④に該当項目がありかつ⑤にも該当項目があるとき → 次の虐待が発生しないうちに保護する必要性を検討
- C ①～⑤いずれにも該当項目がないが⑥⑦のいずれかで「はい」がある場合
 - 表面化していなくても深刻な虐待が起きている可能性
 - あるいは虐待が深刻化する可能性
 - 虐待リスクを低減するための集中的援助。その見通しによっては一時保護を検討
- A～Cのいずれにも該当がなく、⑧のみに「はい」がある場合
 - 家族への継続的・総合的援助が必要。場合によっては、社会的養護のための一時保護の必要性を検討する